

大亞細亞主義

陸軍中將 松井石根



松井石根閣下

名譽ある孤立

諸君！日本はつひに國際聯盟を脱退するの止むなきに至つた。喜ぶべきか、悲しむべきか、そは一にかゝつて、國民今後の覺悟如何にある。

たゞ一事を忘れてはならぬ。それは日本が、斷々乎として正義を踏み來つたといふことである。國際協調のためには、出來得る限り、絶えざる努力を續けて來たといふことである。不幸にして、過去一年半に亘る帝國の誠意ある努力も、なほ聯盟をして反省せしむるを得なかつた。そして日本

は聯盟を脱退して、國際的に孤立するの止むなきに至つた。

しかしそれは名譽ある孤立である。

不動の正義を持つるものは、虚偽多き現世に於ては、時に名譽ある孤立を守る覺悟がなくてはならない。

これは私の信念である。同時に日本國民の信念でなければならぬと思ふ。この信念に動搖を來した時こそ、禍ひは外にあらすして内にある時である。滿洲問題が最後の土壇場に至つたその一二週間、日本の國論の一部が動搖したといふ風評が聯盟に傳はつた。この東京の空氣は直ちにジュネーブに反映し、聯盟をして誤れる邪推を起さしむる原因となつた。

『日本は非常に強硬なる態度を執つてゐるが、これは軍部または政府一部の活動であつて、日本國民大多數の輿論ではあるまい。従つて日本の滿洲經營は、財政的、經濟的に、また政治的、國論的に、中途にして繼續し能はざるに至るのではなからうか』

かうした誤つた觀測が聯盟内部に行はれ、そしてあの不當なる決議案を、作成通過せしむる原因の一となつた様である。

茲において私はますく、日本九千萬同胞が、不動の信念をもつて邁進するの必要を思ふので

ある。國民の滿洲問題に對する信念は不動である。延いては亞細亞問題に對する信念は不動である。たとへ國家を焦土に歸するとも、正義は狂ぐることはできない。——この不動の信念あつてこそ、始めて正義は貫徹せられ、皇國建國以來の崇高なる國是が達成せられる。と思ふのである。

國難に備へよ

かくの如く觀するるとき、我等はむしろ心の安きを覺ゆるのである。日本が聯盟を脱退したといつても、何の驚ろく必要もなければ、帝國が孤立したといつても、何の恐るべきこともない。それは當然來るべきことが來つただけの話である。問題はたゞ、次いで起るべき事態に對し、日本は如何なる準備をしなければならぬか、國民は如何なる覺悟をもつて臨まなければならぬか、といふことである。

誠に悲壯なる覺悟を以て、帝國は聯盟の勸告に反對した。誠に坦然たる決意を以て、日本は聯盟を脱退した。次いで起るべき問題は、所謂規約第十六條の適用、すなはち經濟封鎖若くは交通禁止の問題である。或はかくの如き事態に直面するの止むなきに至るかも知れぬ。また聯盟の作用を離れて列國が直接に他の手段により、帝國に干渉し、帝國を脅威し、或は機に臨んで威力を以て帝國に迫

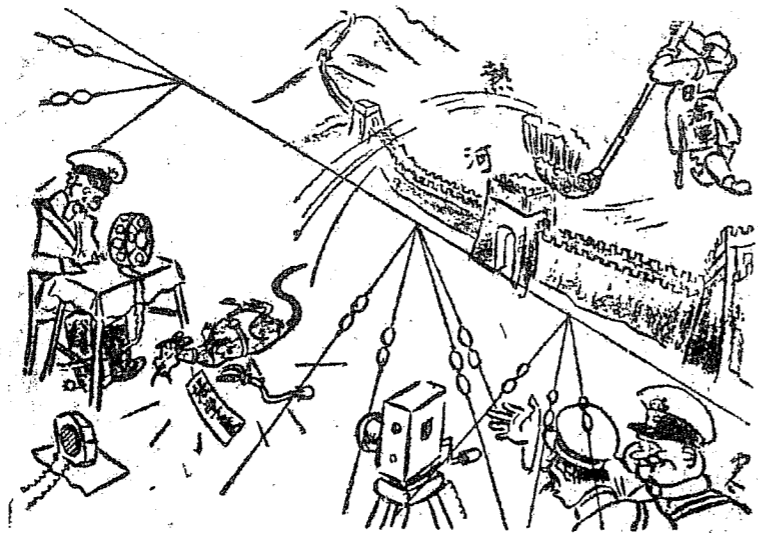
ることがないとも保證できない。勿論、經濟封鎖、實力威迫、延いては戰爭などといふことは、中々實現し難いであらう。しかし私は今その有無を、かれこれ想像することを欲しない。無いかも知れないが、あるかも知れない。寧ろ當然に來ることを覺悟して、今のうちから研究し、これに應ずるの準備に、直ちに取らなければならぬと思ふのである。

經濟封鎖よ來らば來れ！ 實力威迫よ來らば來れ！ 我にはそれに應ずる準備と決意とがある！ かくして始めて、我等はその信念に邁進し、正義を貫徹することができるのである。

皇國の建國以來の國是は、申すまでもなく、神武天皇が『八紘を掩ひて宇となす』と宣うた

○蔣介石北上

堤 寒 三



さすがに支那は宣傳國、先づラヂオだけは完備して居りました、
『ア鼠の學
良が熱河
から掃き飛
ばされると
何を掛いて
も放送。』あ
ッ！只今、
學良がぶ
こ潰れまし
た。代つて
私が抗日
したいので
すが、何分
の御援助を
……』

それである。爾來二千五百有餘年、この光輝ある國是を一貫し來つたことは、燦として古今東西に輝ける事實である。正義！これぞ最も尊き日本精神である。日本民族の精神である。武士道である。弱きを扶けて強きを挫く。正義のあるところ、千萬人と雖も我往かん。これぞ我が日本國民の傳統的精神である。

我等は今や、この輝ける日本精神を、世界に發揚するの絶對の機會に際會してゐるのである。

亞細亞民族のために

明治大帝以來、帝國の亞細亞における國是は、日清日露の兩戰を通じて、すでに國民の精神となつてゐる。

顧みれば四十年前、我等は三國干渉といふ、痛憤に堪へざる國難に當つた。しかもこれに際し、臥薪嘗膽、つひによくこれを克服したる日本國民である。今日帝國の蒙つてゐるところの國難は、三國干渉に幾層倍するものである。然らば再び臥薪嘗膽、世界を對手とするの氣概をもつて、まづ國民の信念と團結を堅め、一糸紊れず國難に當るの決意がなければならぬことは、言ふまでもないことである。

今や滿洲三千萬の民衆は、帝國の同情と誠意ある援助によつて救ひ出され、名譽ある獨立を贏ち得たのである。しかしそれだけで止つてはならない。進んでは支那四億の民族に對しても、今日我等が滿洲に對すると同じ深い同情と援助とを與へ、彼等が政治的に經濟的に思想的に、世界各國から蒙つてゐる悲しむべき状態から、救ひ出さなければならぬ。その重大なる責任と使命とが、帝國の双肩にかゝつてゐるのである。

かくして我等は滿洲を救ひ、支那を救ひ、その力を漸次亞細亞の他の諸邦に及ぼして、我々の同種同族たる亞細亞民族を救ひ出さねばならぬ。かくてこそ始めて、世界に眞の自由と平和が來り、同時に日本はその正義を貫徹して、孤立の状態を脱却できるのである。

その機運は、すでに亞細亞に色濃く動き始めてゐる。例へば、聯盟總會におけるかの非道なる勸告案に棄權したる世界唯一の國は、我々の同胞たる暹羅であつた。なほ總會の席に缺席した國は十餘國あつたが、その國のなかに、我々は亞細亞の同胞『イラク』と『アビシニヤ』を數へること

を欣懐とする。この棄權または缺席といふ事實のうちに、我々は將來亞細亞聯盟の建設に對する、何等かの光明を認むるものである。

大亞細亞運動

我々が昨夏以來、今日の困難に處せんがために、大亞細亞運動なるものを提唱し來つたのは、實にこのためである。

我等の大亞細亞運動は、言ふまでもなく、滿洲の併合を提唱するものではない。また斷じて、支那の經路を主張するものでもない。勿論、亞細亞より全歐米人を排斥せんとするものではない。亞細亞が今日蒙つてゐるところの、政治的・經濟的・精神的、あらゆる悲惨なる状態から、亞細亞民族を救ひ出すことを眼目とするものである。それは同じ亞細亞の同胞にして、亞細亞における唯一の完全なる獨立國たる日本の、最も貴き使命であると思ふのである。

かるが故に、亞細亞に生存し、亞細亞と運命を共にし、亞細亞の幸福のために努力せんとするのは、その英人であると米人であるとを問はず、すべてこれ我々の同志である。相提げて亞細亞のために努力すること、むしろ我々の希望するところである。

かくして我々は先づ、亞細亞の脚下を踏みかためなければならぬ。今日歐羅巴における歐羅巴聯盟、或は南北亞米利加兩大陸に互る汎亞米利加運動の如く、同族同胞相倚つて、各々その脚下を踏

陣中詠

陸軍少將 長谷部照悟

滿城歡喜して皇軍を驕ふ。將士慨然として心欣ばず。天業いまだ成らずして儔友歿す。風は寒く南嶺は雪紛々たり。

凱旋道上入新幕有喜

滿城歡喜皇軍
將士慨然心不欣
天業未成儔友歿
風寒南嶺雪紛々

照悟

み固める。そしてその亞細亞、歐羅巴、亞米利加、乃至はソヴェートの聯盟が、互に相調和して、こゝに始めて、世界の眞に公正なる平和の途に進み得るのである。

帝國未曾有の困難の日に當り、また世界の慘憺たる混亂を眺めて、それを救ふの道はたゞ一つ、これより他にないと確信する。諸君！先づ廣く世界を見よ！次いで近く亞細亞を顧みよ！そして九千萬同胞が、この重大なる日本の使命に眼覺め、一人の如くに起ち上らんことを、希望するのである。即ち曰く『先づ亞細亞に還れ。更に大亞細亞主義に還れ』